

ふれあい

市青少年育成市民会議 ☎42-3511

碧南市青少年育成モデル地区 青少年育成棚尾地区推進委員会

街ぐるみで育む若い力

令和3年度の碧南市青少年育成モデル地区は棚尾地区です。

棚尾地区には、毎月3日に例祭のある毘沙門天妙福寺、国産初の四幅式毛織機を開発した鉄工所、純米酒「達吉の里」を始めとする酒造業などがあり、美術工芸家の藤井達吉の出身地でもあります。

「街ぐるみで育む若い力」をテーマに、町内会長、小中学校長、民生委員、主任児童委員、保護司、おやじの会代表、子ども会、PTA役員など33人で組織し、青少年育成推進員4人を中心に、世代を越えたコミュニケーションで地域の輪を広げ、若い力を育て、なごやかな棚尾の町になるよう活動しています。

DVD『ぼくたち わたしたち
SNSやってるよ』を作成しました

SNSに起因する犯罪被害が発生しています。子どもたちが、SNSの利用により犯罪被害に巻き込まれないようにするには、保護者として何ができるのかを考えていただくきっかけになればと思い、啓発資料（DVD）を作成しました。

内容は、

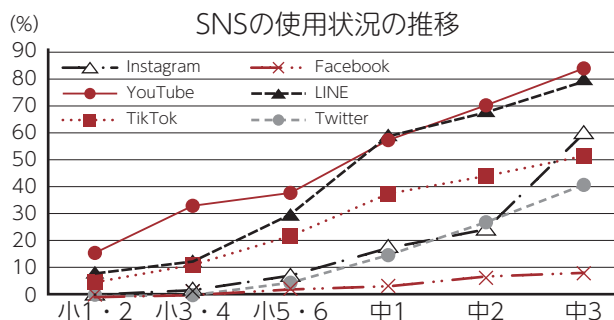
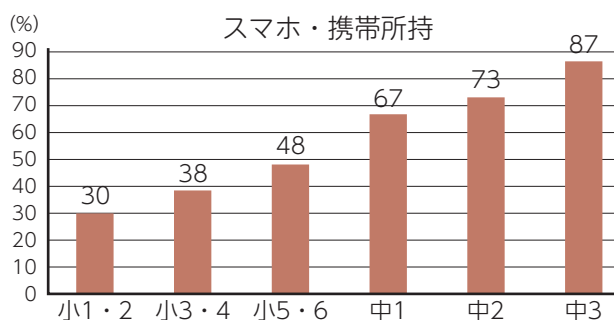
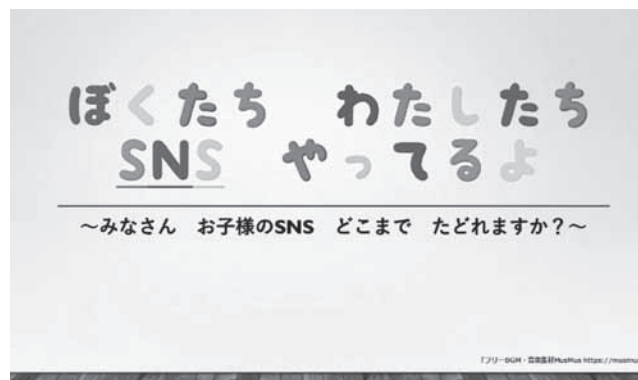
① SNSに対する意識調査の結果

地区の小学校、中学校に通う児童・生徒、その保護者の皆さまのご協力を得て、アンケートを実施しました。

② SNSに関する犯罪の状況等について

碧南警察署の方に、SNSを利用した子どもの犯罪被害の状況、犯罪被害に遭わないためにはどうしたらよいのかについてお話しいただきました。

作成しましたDVDは、児童・生徒、その保護者の皆さまのために役立てていただきたく、地区の小学校、中学校に寄贈させていただきました。



今後の予定

11月21日(日) 秋の早朝ウォーキング&クリンピー

12月25日(土) 年末愛のパトロール

2月10日(木) 青少年育成棚尾地区推進委員会

青少年育成推進員の活動

碧南市では、各地区に青少年育成推進員を4人ずつ任命しています。その推進員を中心に青少年育成地区推進委員会を設置し、親子のふれあい行事、体験活動を実施しています。その中で、親子のふれあい、地域の人々と子どもたちとの交流を深めています。また、中学生ボランティアが積極的に参加し地域の方々との協働事業を進め、地域に根付いた子どもたちの育成にも一役を担っています。

今年も、コロナ禍のため、例年各地区で計画しているイベントがほとんどできません。早く新型コロナが収束し、地域の絆が深められる行事が進められることを願っています。



中央 110番の家スタンプラリー



大浜 ふれあい浜っ子庵



鷺塚 昔の遊びあれこれ



日進 フラワーポットの花植え



棚尾 なつのおもしろフェスティバル



西端 ふれあい長縄跳び大会

※写真は過去のものを使っています。

親子ふれあい缶バッチ ～チャレンジショップの新たな挑戦～

青少年育成推進員連絡会では、毎年元気ッス！へきなんでチャレンジショップを出店し、かき氷の販売やスーパーボールすくいなどを行って、親子のふれあいの場を創出しています。しかし、今年も元気ッス！へきなさんが延期となったため、7月24日(土)に行われたJC主催イベント「Hekinan Style」の中で、親子ふれあい缶バッチに取り組みました。

参加された親子は、碧南市のキャラクターの「しょうぶー」や県の青少年キャラクター「ゆうりい」の塗り絵に挑戦したり、スマホに入っている写真を缶バッチにしたり、世界に1つしかない自分だけの缶バッチを製作しました。缶バッチマシンを自ら操りプレスして缶バッチづくりに挑戦する子もいました。

親子で楽しそうに参加する姿はとても微笑ましい様子で、親子の絆が深まるものでした。

また、青少年育成市民会議が取り組む夏の運動の啓発品であるマスクケースを配りながら、青少年とともにすすむ夏の運動を展開しました。

青少年育成
推進員連絡会



青少年育成市民会議の主な活動

青少年育成市民会議では、市民総ぐるみで青少年の健全育成が図れるように啓発活動をし、親と子のふれあいや地域のおとなと子どものふれあいに焦点をあて、活動を進めています。

また、愛知県青少年育成県民会議と連携し、以下の運動を展開しています。

青少年とともにすすむ夏の運動・冬の運動

強調月間 7月1日～8月31日 12月1日～1月10日

県の推進する「青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動」と連携し、学校や保護司、民生委員の方々とともに「非行の芽 早めにつもう みな我が子」をスローガンに「夏の運動」「冬の運動」を展開します。

- 市内イベントでの啓発活動を実施
- 夏休み期間中における児童・生徒への生活指導
- 青少年の非行防止と事故防止のためのパトロール
- 公民館、プラザ等の窓口での啓発品配布



夏の運動啓発品「マスクケース」

青少年によい本をすすめる運動

～育てよう 豊かな心 読書から～

強調月間 10月1日～10月31日

読書好きな子は、読書好きの家庭から

市民会議では、強調月間に「青少年によい本をすすめる運動」のポスター、チラシを掲示し、啓発活動を行っています。

良い本との出会いは、心を動かし、受身ではなく自らのこととしてさまざまな内容に向き合うこと

を促進します。その中で、子どもたちは心の幅を広げ、思考力を育むことができます。

強調月間に限らず、市民図書館、中部分館や南部市民プラザでは、「絵本の時間」「おはなし会」での読み聞かせを行っています。

そして、子どもの実態に合わせて、本との出会いの機会や読書環境を提供しています。



「親子キャッチ575」 ～今年で18年目になりました～

市民会議では、親子のふれあいの機会を創出する目的で、「親子キャッチ575」に取り組んでいます。「家族の絆」「地域の絆」「命の大切さ」「人への思いやり」をテーマに親子で川柳にして、気持ちを伝え合う事業です。

今年で18年目を迎えます。毎年4,500点ほどの作品が集まります。ウィットのきいた親子のやりとりが34文字の中に表現されています。

昨年は、例年の作品テーマに「コロナ禍における生活の様子や思い」を加えました。日頃当たり前と思っていたことがそうではないこと、あらためて親子の絆を深めるなど、その年ならではの作品が集まりました。感心したり、感動したり、それぞれの思いが込められ、作品の中からは、それぞれの家庭の中で培われた温かい家族の様子が伝わってきました。

今年は、東京オリンピックを通して感じたこと、思ったこともテーマに加えました。

募集期間を8月1日～9月1日として、今年も小中学生、高校生の親子からたくさんの作品が寄せられました。

<昨年の最優秀作品から>

子ども：かっこいい いつもとちがう パパのかお
大人：テレワーク 熱い視線に 照れちゃうよ
子ども：コロナ禍で 俺のスマホは フル回転
大人：スマホにも 休業要請 発令だ

その他の主な活動

- 機関誌「ふれあい」の発行（10月、3月）
- 元気ッス！へきなん、きらきらウォークでの啓発活動（8月、12月）
- 「家庭の日」運動の実施強調月間（2月1日～2月28日）
- 毎月第3日曜日の「家庭の日」啓発推進

子どもは社会を映す鏡

碧南青年会議所

杉浦 晴太郎

「子どもは社会を映す鏡」です。大人がきちんとした行動をとっていなければ、その姿を見て育った子どももその大人ようになってしまいます。大人が“良い生き方”をすることが、社会をよくすることに繋がります。何かあった時に子どもを批判するのではなく、大人が子どもの模範となる行動をとれているかを確認する必要があります。

こんな光景を目にすることがありませんか？

食堂で家族がテーブルに座っています。親はスマートフォンでSNSを閲覧し、子どもはゲームに熱中していて一切会話がありません。食事が運ばれてきてもそれらを片手に食事をとっています。

子どもが生まれて10年も経てば、思春期がきて会話が減るかもしれませんし、更に10年経てば独り立ちする子どもも少なくありません。

家族で共有する時間は貴重なのです。ですから、折角食卓を囲むのであれば、一旦電子機器はカバンにしまいましょう。そして、食事のマナーを伝えたり、「おいしい」ということを共有したり、日々の出来事を共有・相談するなど、大人が意識して行動することで、子どもの行動が変わるはずです。

子どもができないのではなく、大人ができていないということを認識して日々行動していきましょう。



子どもは教師を映す鏡

碧南市小中学校生徒主事・主任会

江口 遼

小学校の6年間は、人間形成において大きな影響を与える期間だと言われています。そのため、この時期に子どもたちと接する時間の多い教師は、子どもの豊かな人間形成において重要な役割を担っていると言えます。

私が子どもと接するときに大切にしていることは、2つあります。

1つ目は、あいさつです。私が勤務している鷺塚小学校では、OMJRのあいさつ（O…大きな声で、M…目を見て、J…自分から、R…礼をして）をスローガンに取り組んでいます。毎月3日間あいさつ運動をしていますが、日に日に挨拶がよくなるのがわかります。続けてあいさつをする教師の姿をみて子どもたちが変わるんだと再認識しました。まさに、「子どもは教師を映す鏡」であると実感しました。

2つ目は、目標やゴールを明確にすることです。本校の7月の生活目標は「履き物をそろえよう」でした。私が履き物をそろえるポイントについて全校集会で話をしたところ、翌日には下駄箱のシューズがきれいにそろえられていました。

教師が示す目標が低ければ子どもの成長も制限されてしまいます。子どもの可能性を伸ばすことができるように、子どもが一番輝く姿が何かを見極め、支援していきたいと思います。

子どもは良いことも 悪いことも大人から学びます

スポーツ協会

杉浦 直基

人は、生まれて最初に遭遇する親もしくは養育者の行動規範から社会性を学び、その後の思考回路まで影響を受けていきます。子どもたちはしっかりと大人を見ています。それは、社会生活全般でどこまでが許されるのかの確認作業ではないでしょうか。

良い行いというのは概ね他人のためにもなることで、悪い行いは他人に迷惑をかけることにつながりま

す。私たち大人の無責任な行動が子どもから見れば「ここまでは許される範囲」であり、やがては彼ら彼女らの社会規範の基礎となりうるとしたら罪深いことです。

あまりにも厳しすぎる規律もどうかと思いますので、適度なさじ加減を大人が学びつつ子どもの視線も心の片隅に留めて、子どもと大人ともに楽しく正しく育つのが理想です。

いつの時代でも不変なこともあります。人々の考えがより細心に進歩してきている現実もあり、大人こそ学び続けることが肝心だと思います。

